

2019年8月26日

あおぞら投信株式会社

「マイナスの 金利を見ては ため息か リターンの居場所 探し求めて」

米国国債は30年債利回りが史上初の2%割れを記録しました(2019年8月15日)が、世界の金利はもっと大きく低下しています。投資家のリスク回避でマイナス利回り債券の残高は17兆ドル(約1804兆円)に迫っているとも言われています。各国の中央銀行が安定的な経済成長を支えるために、金融緩和政策を選択し市中に潤沢な資金供給を続けた結果、歴史上でも経験のない利回りの低下が目の前に展開しています。なぜこのように予想以上に低金利の世界が広がっているのでしょうか。

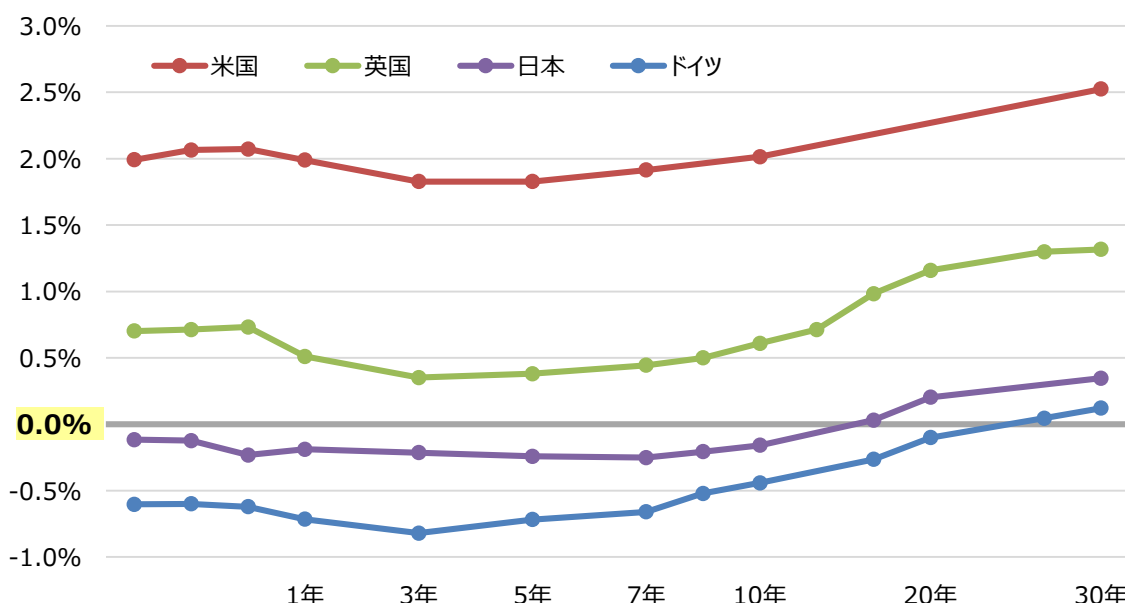
まず、そもそも金融政策の限界があるということでしょう。成熟社会の先進国経済では、供給過剰の状態が生まれ、インフレーションの可能性は低い状態にあります。また経済の成長力にも限界が見られており、そのため投資マネーはリスクオフ^{*1}の部分が大量に生まれてしまっています。一方で各国の財政状況は様々ですが、国家破綻のリスクは低減しており、キャッシュを持っていく場所として、国債のニーズは増えています。今後も金融政策の選択肢が限られる中、低金利傾向を抜け出すことは簡単ではなく、その中での投資機会をいかに見つけるかが課題となります。米国では長短金利の逆転が見られる中ですが、債券投資の方法としては、地道にロールダウン^{*2}効果を狙ったポートフォリオを構築することが重要となります。政治的なリスクなどを評論していても利益は上がらないので、自分たちのポジションをプロテクティブに保ちながらも、継続的な投資機会を捉えていくということが必要なのです。『世界的なキャッシュの重み』こそが金利低下のもっとも大きな要因であり、この前提でマネーフローを想像することが大切だと考えます。

*1: 投資家がリスクを回避するようになり、より安全な資産に資金が向かいやすい相場状況。(対義語: リスクオン)

*2: 時間経過とともに利回り水準がイールドカーブの斜面を転がり落ちるように移動し、債券価格が上昇することをロールダウンといいます。

柳谷俊郎

各国国債のイールドカーブ (2019年7月末時点)



出所: 米財務省、英財務省、財務省、独連邦財務省 及び各種情報を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>